

# 浦安とみおか川柳会

## 七月例会結果

日時： 令和4年7月12日(火)  
 出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、  
 長谷川智、三浦みちえ、光永ひかる、  
 森山裕子、山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

点数  
 講師  
 推奨  
 課題「洗う」互選 講評\*佐藤青樹

11・新緑のシャワーに邪心洗われる 裕子

8 土砂降りへ心の憂を放り込む みちえ

一読明快の句。心の憂さは、きつと土砂降りに放り込むほど大きかったのでしょうか。「憂」は「憂い」では

5 老いてなお洗いざらしの似合う人 ひかる

下五の「人は誰でしょう」  
 参考：老いてなお洗いざらしが似合う母

4 洗濯の手間を省いた紙オムツ 順

「紙オムツは洗濯の手間を省いてくれました」説明句  
 参考：紙オムツ替えて介護の手を洗い

3 墓石が詫びる心に洗われる 裕子

暫く墓参りをしなかったことを詫びる心読み取れ絵が見える  
 一日の疲れを流す妻の酌 裕子

2 クサイ金バハマですすぎアクを抜く 和昭

一読明快の金銭洗浄の句  
 定年後最初の役は皿洗い 順

尻青の洗い流せぬ赤つ恥 和昭

一読明快の句。「洗い流せぬ赤つ恥」とんでもない恥だったのでしようが、尻青なので大目に見られるのでしようね

髪洗い抜け毛数えて老いを見る 智

参考：洗髪の抜け毛数えて老い深し

2 足洗う真面目になった訳じゃない 宣子

悪いことから足を洗って抜けだすのでしょうか。

参考：堅気にはなれねど足を抜いてみる

1 日常を忘れとび乗るフリーパス ひかる

課題を詠み込まず心洗い流す行動をリズムよく表現できた  
 願いごと脳へシャワーのリフレッシュ しだれ

願い事を神仏にお祈りしたので、脳がシャワーを浴びたようにリフレッシュ。それとも脳をリフレッシュできるようお願い？

讚美歌に心の汚れ白くなる 勝

参考：讚美歌に心の汚れ洗われる

美合唱聞く耳大事まず洗う 昇柳

美しい合唱を聴くときは、先ず耳をしっかりと鍛えておく？

今日は雨心静かに時過ぎる しだれ

参考：紫陽花へ心の憂さを流す雨

腎臓を薬で洗い元気で 昇柳

参考：透折へ職場復帰を期して行き

バスタイム心の砂が流れ行く ひかる

絵が見え一読明快の句

手を洗い心も洗い恋さらば 宣子

参考：失恋の痛手を流すひとり旅

洗っては食べまた洗う総入れ歯 順

絵が見え、面白く出来ました

胃腸からポリープつまみ保障され 昇柳

参考：ポリープを摘んで胃腸が保障され

没 今は家むかしバイトで皿洗い

水滴の輝く苔へハツとする

お疲れと夫労わる皿洗い

コイン持ち毎週末にランドリー

課題「永遠」二人選 三浦みちえ選

秀	特攻の命果てても名は残る	勝
客	古里の心に残る白い花	勝
秀	袋菓子一度開けたら最後まで	ひかる
客	日が暮れてそれでも続く立ち話	ひかる
秀	永遠の愛を誓ってすぐ離婚	勝
客	君召され二人の愛は永遠に	しだれ
秀	初恋の残り火胸へ遊ばせる	順
客	未来永劫天に唾吐く戦好き	宣子
秀	そり合わずとわの誓いは成田まで	和昭
客	知床の沖に沈んだプロポーズ	和昭
秀	語り継ぐコロナに病んだ世界危機	裕子
客	永遠の平和を祈る原爆碑	裕子
秀	とこしえに富士と桜と九条と	裕子
客	永遠の誓いを反故に次の恋	裕子
秀	恒久の平和を誓うウクライナ	裕子
客	古里はモノクロのまま母が住む	裕子

自由吟 山岸 順選

秀	永遠は百歳を越え考える	昇柳
客	初恋の残り火胸へ遊ばせる	順
秀	語り継ぐコロナに病んだ世界危機	裕子
客	悠久の時が始まるビッグバン	和昭
秀	友逝きて永遠の別れに涙する	智
客	永遠の誓いを反故に次の恋	みちえ
秀	とこしえに富士と桜と九条と	裕子
客	日が暮れてそれでも続く立ち話	ひかる
秀	永遠の平和を祈る原爆碑	裕子
客	そり合わずとわの誓いは成田まで	和昭
秀	君召され二人の愛は永遠に	しだれ
客	知床の沖に沈んだプロポーズ	和昭
秀	古里はモノクロのまま母が住む	和昭
客	特攻の命果てても名は残る	和昭
秀	永遠の愛を誓ってすぐ離婚	和昭
客	古里の心に残る白い花	和昭

課題「永遠」二人選 谷口 勝選

客	赤パンツ人目はわかる更衣室	ひかる
秀	初選挙思いを胸に見とどける	智
客	ジェンダーを笑って見ている道祖神	勝
秀	虹色の選挙公約シャボン玉	勝
客	物価高今日もムンクになる叫び	ひかる
秀	今年またぼんやり過ぎし盆が来る	裕子
客	菓子折りの重さで当てる頼み事	裕子
秀	ロウソクを一気に消した誕生日	裕子
客	釣り銭をため宇宙への夢を追う	裕子

日時 令和4年9月13日(火)  
13:00~16:00  
場所 富岡公民館  
課題 「脳天気」互選 :3句  
「力」二人選 :3句  
自由吟 :3句

「犬吠」7月号 掲載会員句

百歳へメンテナンスを怠らず(みちえ)  
有能さラップに包み君静か(宣子)  
川柳が好きまさに病気やみつきだ(昇柳)  
笑顔でも心開かぬ嫁淋し(しだれ)  
建前と本音セットの人生譜(裕子)  
原初の血滾らせ響く胎鼓動(和昭)  
返納をしろと言えない火の車(順)  
高速に若葉と紅葉カーチェイス(勝)

# 川柳いろいろ

## 川柳の理論と実践

新家完司

### 没句

互選句（洗う）…続き

洗ったシャツ風に吹かれて逃げて行く  
餃子食べマスクで会話句わけせず  
擦り傷は水で洗って赤チンキ  
洗濯機壊れ手洗い荒れた手に

一人選句（永遠）

肩書の無職を嫌いな元社員  
戦争よ永遠に無くなれ地球より  
いつ来ても閉店セール続く店  
職員とまちがわれても永久の母  
未来永劫天に唾吐くつ戦争好き  
星空は永遠だけ地球では  
ヒーローが最後には勝つ映画館  
この時代手紙で続く友達と  
日本の平和九条に寄り添う

式部様「源氏」著作へ永遠の人

永遠は合唱やめたら考える

恒久の平和を願うウクライナ

永遠はポランテイアやめたら考える

### 自由句

憂さ捨てて今日をスタート楽しもう

足腰口立ちかねるとも腹は立つ

カラ梅雨に出番がないと嘆く蟬

便利には背中合わせにある不便

コロナ禍の医者は推挙で気さくだね

ほめ言葉？お前ヤバイと友が言う

くそばあばならず居てと言う息子

低山で遭難おきる千葉の山

正直に投葉は無い物だけに

凶弾に散った桜の太い幹

マスク取れバンとふくらむ旅心

物価高年金減るも援助無し

不用品買い取りますが他を含め  
身体検査やワクチン・ホルモンや

### 作句の心得

#### 1 自分を観察する

「何を書いたらいいのかわからない」という声を聞く。  
・ここを動かす 感動とかポツカリは自分の意思で  
生じるものではない。待っていて動かないなら自分で  
動かすようにしよう。その一つが「観察」です。  
・自分の行動 一番身近なものは自分自身です。  
自分の日頃の行動を客観的に見つめ「ちよつと面白い」  
とか「他人はやってないだろう」ということ、逆に  
「誰もが同じようなことをしているのではないか」など  
という行動を発見するのです。  
・自分の暮らし 自分の暮らしぶりや寝起きしている  
部屋の状況などを冷静な目振り返る。  
・自分の身体 客観的に観察することにより、多くの  
人に共通していることを見つけることが出来ます。  
・自分の心 自分の中を覗くことが  
出来ます。正直にさらけ出すのが肝心。

#### 2 自分以外のものを観察する

・発見は「今の自分の想い」である 目を外に向けて  
にんげんや街角、物体や生物などを観察してみよう。  
・にんげんたち 本能に基づく大きなものは食欲と性欲  
睡眠欲や集団欲がある。物欲、金銭欲、権力欲、自己  
顕示欲など数え切れない欲を持っている。そのような  
欲望や感情をコントロールしようとする理性を持って  
いるのみにんげんです。この葛藤こそ「おもしろさの  
発生源」であり葛藤に揺れ動くにんげんの姿を見つめる  
ことにより、川柳の素材を発見することが出来ます。  
・にんげんが作ったもの そのまま見過ごすと何でも  
ない「紙くず、案山子、観覧車」に対し「立ち直る、  
旅人の風情、怖がらせないように動く」と擬人化出来る  
・自然 川柳でも花鳥風月を対象にすることはある  
・生き物 深い共感、おおげさに言えば「愛」です  
・先入観は観察の敵 不正確な先入観は観察の妨げ  
同じ風景や同じにんげんを観察していても、そこから  
発見するのは、それぞれ個性により異なります。

### 鑑賞 犬吠賞 平成二十九年度

大賞 米島暁子

しがらみを流すと軽くなる背中

準賞 吉富テイ子

終活という名の機を織っている

新人賞 真田宣子 北島 漣

約束を破った夜の白い月

佳作 岩間直美 佐藤公江

答えなどないから明日も頑張れる

出囃子は無いが余生の幕があく

新人奨励賞（五点 四点\*2） 吉田貞恵

五点

ピーポーがパジャマ姿集めさせ

ポケットでクシャクシャになる正義感

寂しさがキリンの首の長さまで

人が好きだから出てくるお節介

内緒話脇から水がもれてくる

四点

余生へと結び直した赤い糸

キリトリ線の上で迷うてばかりいる

母の齢こえて分からね事ばかり

すれ違う向こうのバスにいる私

前頭葉只今ショート修理中

どの神も賽銭箱を持っている

柳にも靡きたくない風がある

想い出し笑いゆっくり溶けるチョコ

地図に無い昔むかしのあるところ

老老の介護長寿の落とし穴

どこでも咲いて見えますこぼれ種

同じこと聞かれ応える同じこと

地球儀のどこにも見えぬ非常口

脇道に逸れ取り戻すマイペース

同じこと言うんだママとおばあちゃん

平成にさらば手負いの戦中派

元気を鏡の僕に聞いてみる

金田有弘

相葉和子

吉田貞恵

互選句 課題 「小粋」

令和四年 八月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
合唱を耳の散歩としゃれている	うなじみせ髪を束ねて艶やかに	胸のうち見せずに去った粋な君	路地裏に三味の流れる神楽坂	そば通のほどよく手繰りすする音	浴衣下駄粋なつもりがふらふらす	さりげなく粋を振りまく影法師	夏祭りのいなせ姿の若い衆	ユニクロとは見せない粋な身のこなし	ノンアルで酔ったふりする割烹着	あかぬけネクタイ輝き美声出来	浴衣みて花火見上げて惚れ直す	手洗いシャツアイロンかけず粋に着る	浴衣着て縁台で飲む月見酒	お転婆のはっぴ緋背な夏神輿	半纏で神輿を担ぐ若い君	粋がってもなまりに素性バラされる	三歳児歌う演歌の振りがいい
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
						小一時間飲んでお店を後にする	パナマ帽昭和の父のダンディズム	男声の足の散歩としゃれている	雑誌絵で小粋な姿覗き見る	小粋な人なんて今では死語となる	豆絞り祭法被の似合う孫	週末の作務衣姿の粋な夫	さすが銀座財布細って満足す	あか抜けてポチも驚く初帰省	藍染の浴衣着込んで蛍狩り	お先にと勘定すませ行く上司	すれ違う傘をよけ合う江戸しぐさ